

**Point** 四季を通じて山とふれあえる祭時「いちのせき健康の森」

市内厳美町の「いちのせき健康の森」。祭時山の豊かな自然に親しみながら研修や屋外活動ができる施設だ。最大140人が宿泊できるセミナーハウスには、温泉、体育館もあり、設備は充実している。また、キャンプ場や「まつるベスノーランド」も併設。四季を通じて山とのふれあいを楽しめる。

同施設のコンセプトは「自然まるごと」。年間を通して、季節にあわせた講座や行事を行っている。まつるベスノーランドを含めた年間の利用者は約2万7千人。市内はもとより市外からも多くの人たちが利用している。



①いちのせき健康の森 2020



Interview



千田典文さん

岩手県環境アドバイザー／一関地方野鳥の会会長／いちのせき薪の会

profile ちだ・のりふみ

1954年生まれ。高校の教員、県や市の臨時職員を経て、市内の企業に勤務。54歳で退職後、いちのせき健康の森の職員に。今年3月まで同施設の副所長として研修などを担当した。市内幸町の自宅ではまきストーブを愛用。妻と二人暮らし

「プチ冒険」で山への関心を育てよう

私は動物生態学が専門です。荒れた山は、クマやシカにとって絶好の隠れ家。きれいに整備されていれば、動物たちは人の気配を感じて近寄りません。

山に入るには、知識も必要。そのために、子供たちには「プチ冒険」をさせたい。ちょっと危険な場所に行き、ちょっと危険なことをする。その経験が山への関心と知識を育みます。年齢の違う子供と一緒に遊ぶのもいい。自然と役割分担ができます。山自体がいい先生になってくれます。

1「森は海の恋人植樹祭」で力を合わせて作業する室根西小の生徒／2 植樹祭には、全国から約1500人が参加した／3 気仙沼市唐桑の畠山重篤さんに樹木の苗をやさしく手渡す参加者。森林を思う気持ちがこもっている／4 「一関地方育樹祭」で間伐体験をする大東町興田の自然愛護少年団員／5,6 いちのせき健康の森の「サマーキャンプ」で沢遊びを楽しむ参加者／7 健康の森の「雪山たんけんたい」。初めてのかんじき／8 まきで作ったコンロでマッシュマロを少し焦げ目がつくまで焼く。自然の中で味わう格別のごちそう

自然への関心を高めることも、山という資源を守ることにつながる。

雪深い冬山でさまざまな体験をする「雪山たんけんたい」は2月、厳美町のいちのせき健康の森で行われた。参加者は「かんじき」を履き、1センチほどに積もった雪に足を取られながらも、キャンプ場近くの山道を散策した。

参加した児童らは「雪山歩きは初めて。いい経験になった」と新しい体験に満足げだった。

山への関心を高める

アウトドア体験を通じて

緑豊かな山を次世代に残すため、資源を育む心。それは地域の行事と共に、子供たちに受け継がれていく。

厳美町のいちのせき健康の森では9月10日、「一関地方育樹祭」が行われ、約180人の参加者がブナの苗の植樹や間伐体験を通じて、森林を大切にする精神を育んでいる。

山と共に暮らししてきた住民の森林への愛情は根強い。毎年、各地域で、森を育てる取り組みが行われている。

6月5日、室根町の矢越山中腹にあるひこばえの森で開かれた「第28回森は海の恋人植樹祭」。全国から訪れた約1500人が森と海の豊かな環境を作ることを願い、コナラ、カツラやミズキなど約1500本の広葉樹の苗を植えた。

森林を育てる

CHAPTER 3

山を育む  
Take care of mountains.

市内各地で行われる、植樹や育樹の取り組み。山への関心を高める、キャンプなどのアウトドア体験。子供たちは、地域の行事やイベントを通して、山を大切にしている心